

# 串町遺跡

大本北陸本苑建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002. 3

宗教法人 大本北陸本苑  
石川県小松市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、大本北陸本苑建設に伴って実施した串町遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土品整理は、宗教法人大本北陸本苑からの委託を受け小松市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査及び報告書刊行に係る費用は、宗教法人大本北陸本苑が負担した。
4. 発掘調査の調査地・調査面積・調査期間・調査担当者は次のとおりである。  
〈調査地〉石川県小松市串町  
〈調査面積〉940 m<sup>2</sup>  
〈調査期間〉平成13年10月15～12月7日  
〈調査担当者〉坂下義視
5. 報告書の作成は坂下が担当した。
6. 本書の挿図の指示は次のとおりである。
  - (1) 方位はすべて真北であり、水平基準は海拔高 (m) で示してある。
  - (2) 挿図の縮尺は図内に表示した。
  - (3) 第1図には国土地理院発行25,000分の1地形図(平成9年発行「小松」)を使用した。
  - (4) 第2図には小松市発行2,500分の1国土基本図「矢田野」を使用した。
7. 本調査における出土遺物・記録資料は、小松市教育委員会が保存管理している。
8. 発掘調査及び報告書の作成にあたり、宗教法人大本北陸本苑の関係者をはじめ、多くの方々に御協力頂いた、記して感謝申し上げたい。



第1図 周辺の遺跡 (S = 1/25,000)

## 第1章 位置と環境

串町遺跡は石川県小松市串町地内に所在する。小松市は石川県の南西部に位置し、人口・面積とも金沢市に次ぐ県下第二の都市である。市域は北西部で日本海に面し、南端は市域の最高峰大日山（標高1,369m）を境に福井県勝山市に接している。南北に長い市域は、大部分が山地と丘陵で占められ、海岸線に沿った平野部に市街地と農地が集中している。

串町が所在する小松市中南部地域は、かつては日本海の入江であったが海岸部の砂丘地帯・砂州によって遮断された潟湖である加賀三湖（柴山潟・今江潟・木場潟）、三湖周辺に形成された潟埋積平野、そして加賀三湖及び潟埋積平野に囲まれた標高10～20mの月津台地からなっている。しかし、加賀三湖は、大規模な干拓事業により今江潟は消滅、柴山潟も3分の2を失い、かつての水郷風景も幻の景観となってしまった。

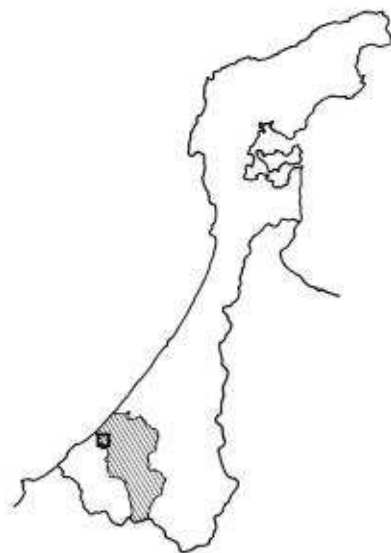
この地域で確認されている最古の資料は、念仏林遺跡出土の石棺で、旧石器時代末から縄文時代草創期のものである。三湖が入り江の状態であったと考えられる縄文時代前期には、木場潟東南岸丘陵縁の大谷山貝塚など、貝塚を伴う集落が潟に面して営まれる。縄文時代中期には、念仏林遺跡・念仏林南遺跡・茶臼山A遺跡等、月津台地上に多くの集落が営まれるようになる。縄文時代後期以降は、遺跡の分布は丘陵部に移り月津台地上からしだいに姿を消してゆく。

次に集落が展開するのは弥生時代末から古墳時代初頭で、念仏林南遺跡・額見町西遺跡では良好な竪穴住居跡を検出している。この時期以降、古墳時代を通じて遺跡数は増加する。特に、古墳時代後期には念仏林南遺跡・矢田野遺跡・矢田B遺跡・刀何理遺跡等の集落が見られ、同時期の古墳の分布との重なりを見せている。

飛鳥・奈良時代には、月津台地上の縁辺部に集落が展開する。薬師遺跡・島遺跡・矢田新遺跡・額見町遺跡・額見町西遺跡等が知られている。中でも、月津台地北西に位置する額見町遺跡は、古代の江沼郡額田郷に比定されている当地域の中心的な集落であったと考えられている。L字型カマドをもつ竪穴住居群、鍛冶関連遺物や土器焼成遺構等が確認されており、渡来系技術者の存在が伺われる。

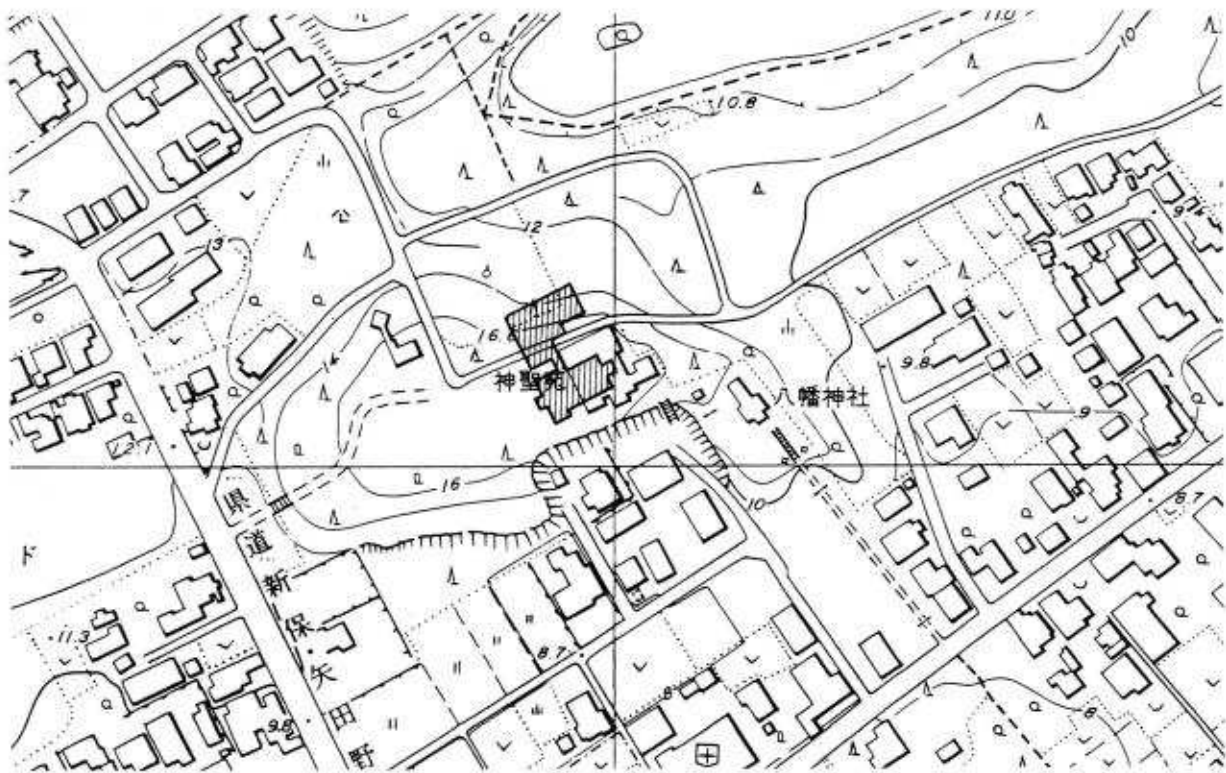
中世以降については、額見町遺跡・額見町西遺跡・矢田新遺跡・刀何理遺跡・芝山中世墓・芝山城跡等が確認されているが、集落の動向ははっきりしていない。

- 1 額見町西遺跡（奈良）
- 2 茶臼山古墳（古墳）
- 3 茶臼山祭祀遺跡（古墳）
- 4 茶臼山A遺跡（不詳）
- 5 茶臼山B遺跡（縄文中期）
- 6 佐衛門殿古墳（古墳）
- 7 額見神社前A遺跡（弥生～古墳）
- 8 額見神社前B遺跡（縄文）
- 9 額見町遺跡（古墳～中世）
- 10 白のほぞ古墳（古墳）
- 11 串町遺跡（縄文・古代）
- 12 月津新遺跡（縄文）
- 13 念仏林遺跡（縄文中期～古墳）
- 14 念仏林古墳（古墳）
- 15 念仏林南遺跡（縄文中期～古墳）
- 16 念仏塚古墳（古墳）
- 17 矢田A遺跡（縄文）
- 18 矢田B遺跡（古墳）
- 19 矢田野遺跡（古墳後期）
- 20 借屋古墳群（古墳後期）
- 21 百人塚古墳（古墳）
- 22 矢田野2号墳（古墳）
- 23 矢田野1号墳（古墳）
- 24 丸山古墳（古墳）
- 25 無名古墳群（古墳）
- 26 矢田新遺跡（奈良・中世）
- 27 狐森塚古墳（古墳）
- 28 刀何理遺跡（古墳後期・中世）
- 29 矢田野神社前遺跡（平安）
- 30 中村古墳（古墳）
- 31 矢田野エジリ古墳（古墳）
- 32 箕輪塚古墳（古墳）
- 33 符津石山古墳（古墳）
- 34 符津B遺跡（縄文）
- 35 符津A遺跡（縄文）
- 36 島B遺跡（奈良・平安）
- 37 島遺跡（奈良～平安）
- 38 島経塚（不詳）
- 39 下栗津横穴（古墳）
- 40 下栗津1・2号横穴（古墳）



## 第2章 調査に至る経緯と経過

串町遺跡の調査は、宗教法人大本北陸本苑（本苑長 加藤夏樹）が実施する大本北陸本苑建設に伴う緊急発掘調査である。平成13年4月に宗教法人大本北陸本苑から小松市教育委員会に対し、事業予定地の埋蔵文化財の有無についての照会があった。小松市教育委員は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「白のはぞ古墳」「額見町遺跡」に近接していることから試掘調査が必要と回答、平成13年5月25～30日に事業予定地720㎡を対象として試掘調査を実施した。試掘溝4カ所を設定して調査を行った結果、縄文土器及び土師器片が出土した。事業者に対し、事業予定地には埋蔵文化財（新規発見の遺跡「串町遺跡」）が存在しており、事業実施にあたっては発掘調査が必要であると通知した。協議の結果、発掘調査を実施することとなり、平成13年10月15日より調査を開始、平成13年12月7日をもって完了した。



第2図 調査区の位置 (S=1/2,500)

## 第3章 遺構と遺物

### SK01 (第5図)

X03:Y02グリッドで検出。径約300cm×280cm、深さ約50cmの略円形の土坑。3層より土師器片が2点出土したが、小片であり器種及び時期は不明。

### SK02 (第6図)

X02:Y01, 02グリッドで検出。直径約120cm、深さ約30cmの円形の土坑。2層には多量の木炭片を含む。1層より土師器片が2点出土したが、小片であり器種及び時期は不明。

### 浅鉢形土器（第7図）

X02：Y03グリッド包含層より出土。口径16cm、器高6cm。口縁部は太い沈線による楕円文が施され、体部から底部にかけては楕円文と多条の沈線が施されている。この楕円文は眼鏡状付帯が便化したものと考えられる。内外面ともに丁寧な磨き調整である。胎土には細砂粒を含み、焼成は良好である。時期は長竹式期と考えられる。

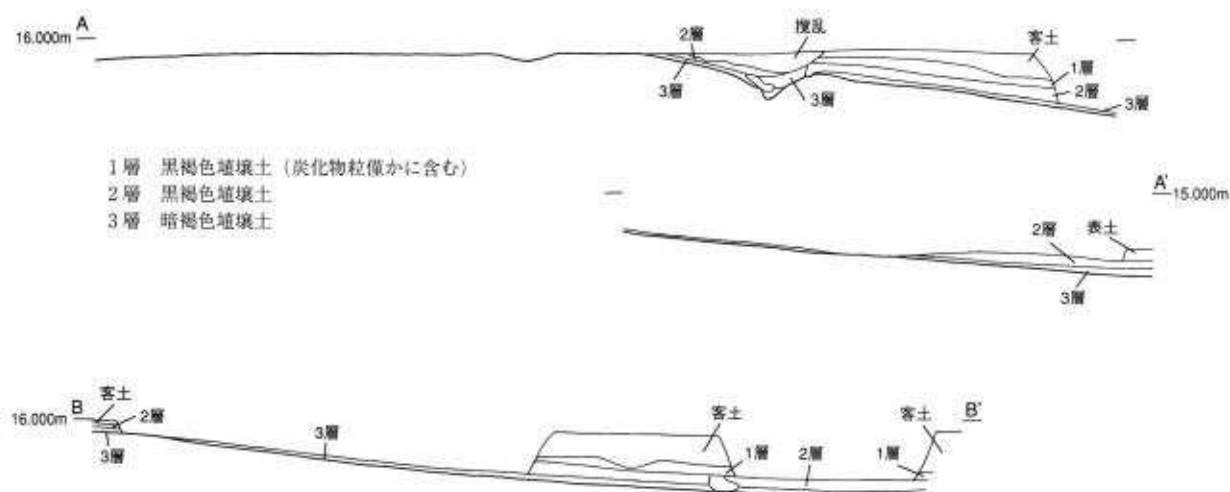
### 打製石斧（第8図）

X02：Y03グリッド包含層より出土。長さ10.8cm、幅5.7cm、厚さ1.6cm、重さ106.1g。形状は短冊形で、流紋岩製。刃部表裏には顕著な使用痕光沢をとどめる。

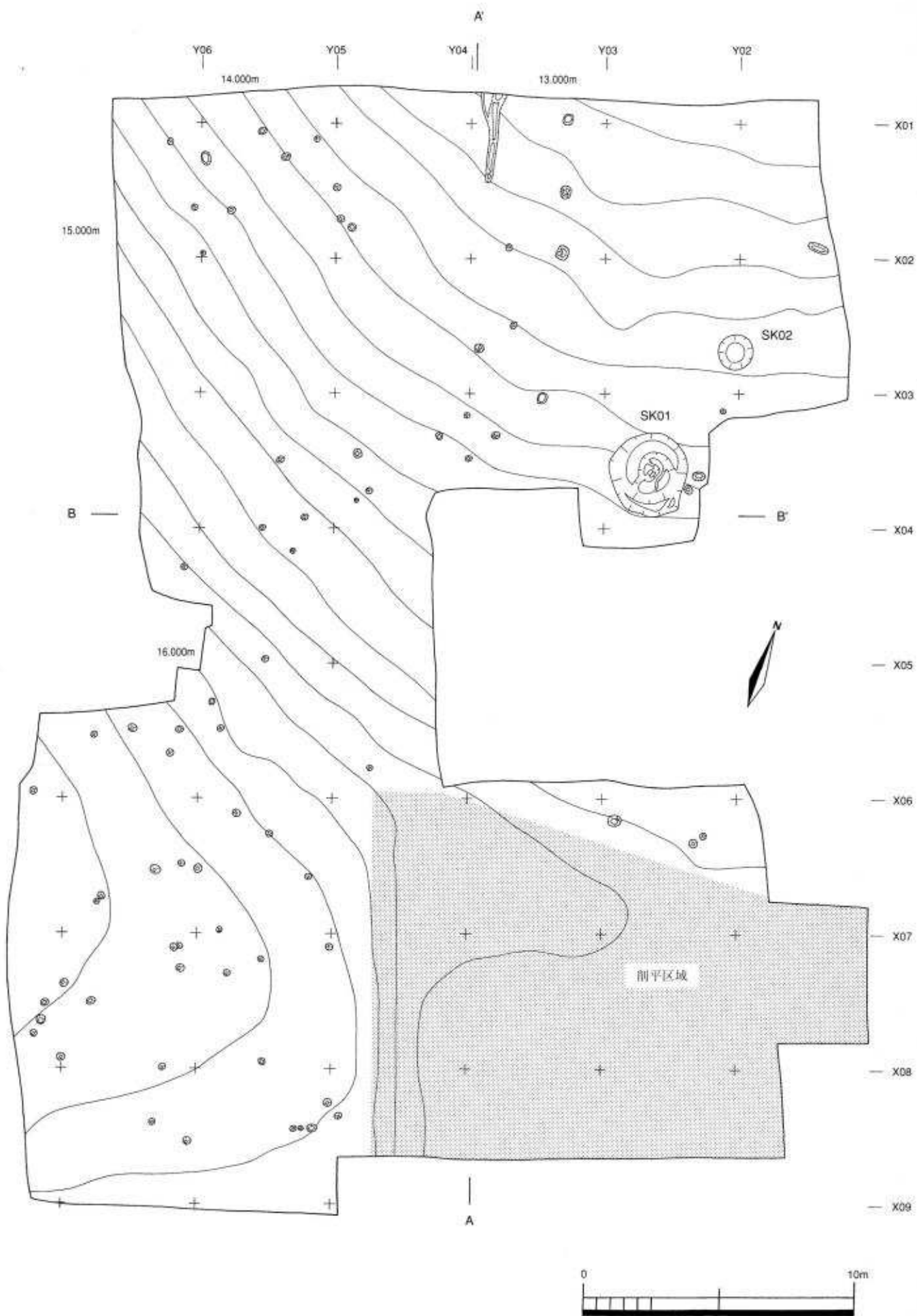
## 第4章 まとめ

今回の発掘調査では遺構は土坑2基とピットを確認した。また、遺物は縄文土器1点と打製石斧1点、土師器片数点が出土した。遺構・遺物ともに少なく、串町遺跡の内容を把握したとは言い難い調査結果となった。しかし注目すべき点は、月津台地上に遺跡の分布が見られなくなる縄文時代晩期の土器が出土したことである。単独での出土であり、同時期の遺構等も確認されていないので不明な点も多いが、月津台地上の縄文時代晩期の動向を知る上での何らかの手がかりとなると思われる。

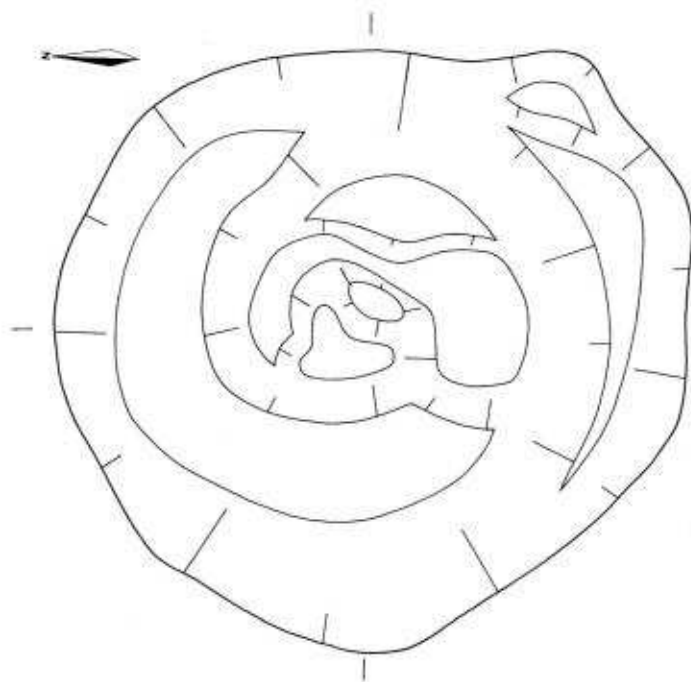
最後に、本遺跡周辺の縄文時代の様子を見てみよう。縄文時代前期には三湖は入り江の状態であったと考えられている。この時期の遺跡の分布はよく分かっていないが、木場湯東南岸の丘陵縁に位置する大谷山貝塚など、貝塚を伴う集落が湯に面して営まれる。縄文時代中期には、月津台地上に多くの集落が営まれており、三湖に囲まれた月津台地が、漁撈活動に好適な地であったことが伺われる。この時期の遺跡には、柴山湯に面した茶臼山A遺跡・額見神社前A遺跡・額見町遺跡、本遺跡南に位置する月津新遺跡・念仏林遺跡・念仏林南遺跡、矢田野台地上の矢田A遺跡、木場湯と今江湯の間の台地上の符津A・B遺跡等が知られている。中でも念仏林遺跡・念仏林南遺跡では、平面楕円形の大型の堅穴住居が確認されている。また、柴山湯対岸の丘陵裾には、縄文時代中期から後期の遺跡である芝山貝塚が存在する。縄文時代後期以降は、遺跡の分布は丘陵部に移り、月津台地上に遺跡の分布が見られなくなる。



第3図 調査区土層断面図（S=1/200）



第4図 調査区平面図 (S = 1/200)

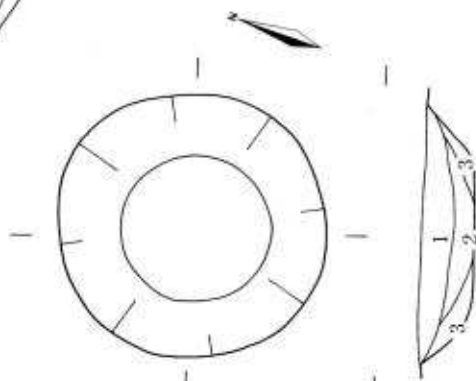
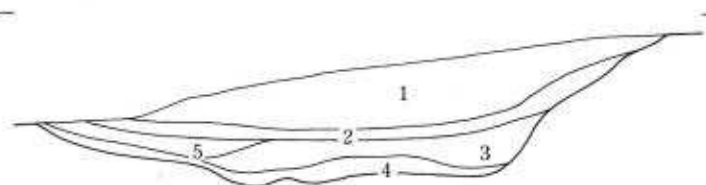


SK01 覆土註

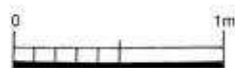
- 1層 黒褐色シルト質壤土に黒色シルト質壤土混じる (炭化物粒少し含む)
- 2層 暗褐色埴壤土
- 3層 黒褐色埴壤土 (炭化物粒僅かに含む)
- 4層 にぶい褐色埴壤土 (地山) に3層少し混じる
- 5層 黒褐色埴壤土 (炭化物粒僅かに含む)

SK02 覆土註

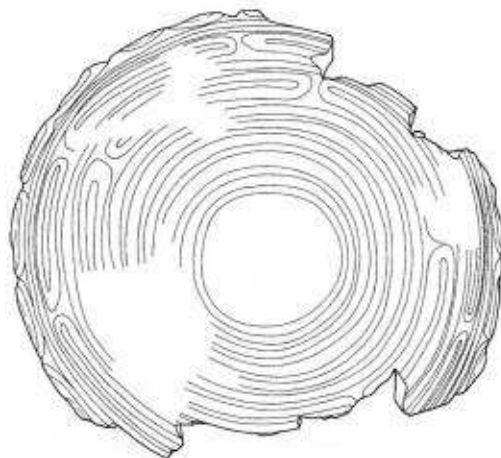
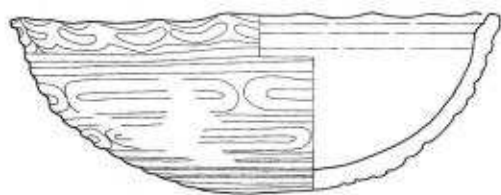
- 1層 黒褐色埴壤土 (炭化物粒僅かに含む)
- 2層 黒色埴壤土 (炭化物粒多量に含む)
- 3層 黒褐色埴壤土に暗褐色埴壤土少し混じる (炭化物粒含む)



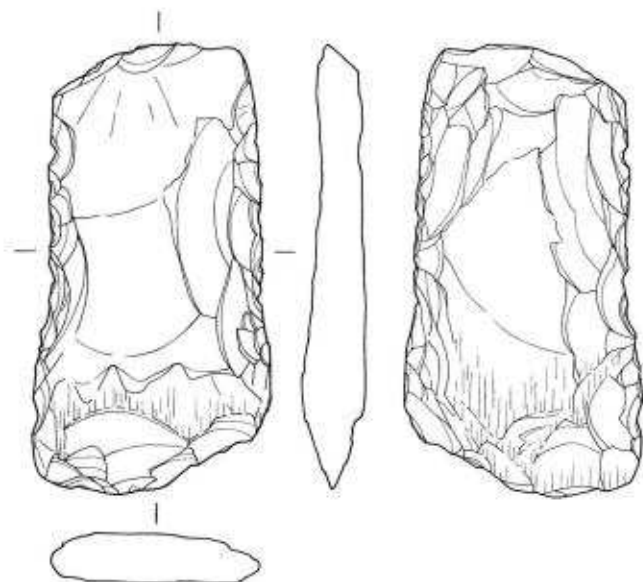
第5図 SK01 (S=1/40)



第6図 SK02 (S=1/40)



第7図 浅鉢形土器 (S=1/3)



第8図 打製石斧 (S=1/2)



試堀調査



プラン確認



調査区（東より）





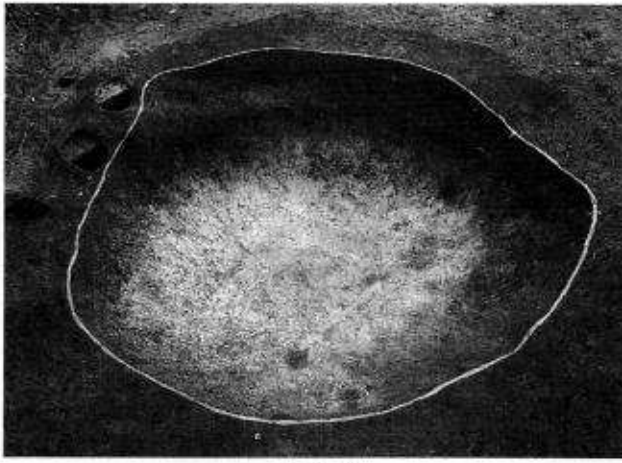
調査区 (西より)



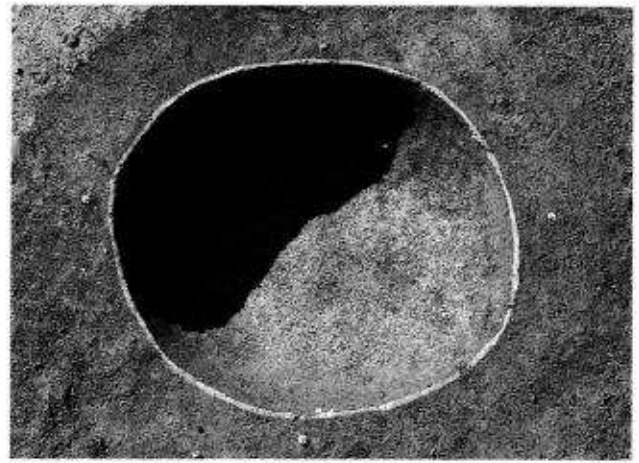
調査区 (北より)



SK01・SK02



SK01



SK02



浅鉢形土器



打製石斧

## 報告書抄録

ふりがな	くしまちいせき							
書名	串町遺跡							
副書名	大本北陸本苑建設に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
編著者名	坂下義視							
編集機関	小松市教育委員会							
所在地	〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地 TEL 0761-22-4111							
発行年月日	西暦2002年3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
くしまちいせき 串町遺跡	いしかわけんこまつ 石川県小松 市串町甲38 -1 他5筆	17203		36度 21分 14秒	136度 24分 52秒	2001.10.15 \n 2001.12.07	940m <sup>2</sup>	大本北陸 本苑建設
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
串町	不明	縄文 古代		土坑		縄文土器 打製石斧 土師器片		

### 串町遺跡

大本北陸本苑建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日 2002年3月29日  
 編集・発行 石川県小松市教育委員会  
 石川県小松市小馬出町91番地  
 〒923-8650 TEL 0761-22-4111  
 印刷 有限会社 塚谷印刷